

越谷市文化連盟  
平成18年度

『こしがや文化芸術祭』  
平成19年2月25日(日)

# NPO法人・越谷市郷土研究会 展示部門出品紹介

於 越谷コミュニティセンター ポルティコホール

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| 『大里の人も加わった下間久里の獅子舞』 | 加藤 幸一 |
| 『越谷出身の画家斎藤豊作』       | 高崎 力  |
| 『増林での草競馬』           | 山本 泰秀 |

# 新発見!

## 1. 大里の人も加わった『下間久里の獅子舞』

加藤 幸一

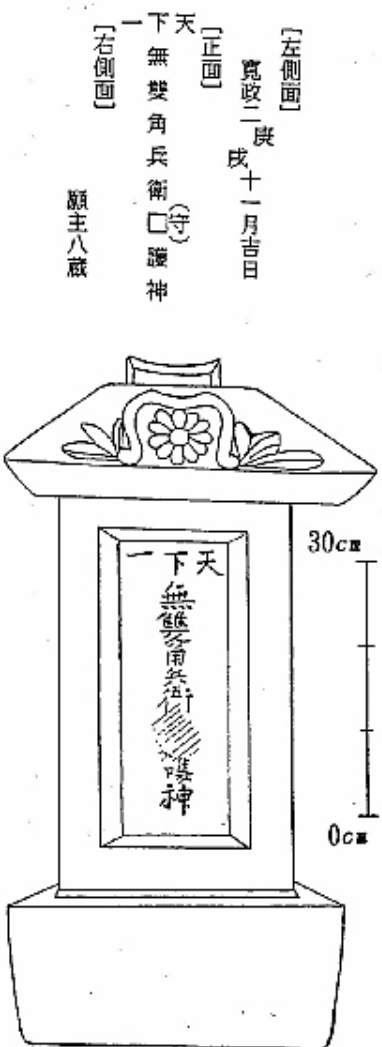
毎年七月十五日に、下間久里の香取神社で行われる獅子舞は、京都より伝承したと伝えられる。昭和三十七年（一九六二）に埼玉県無形文化財に指定されている。

この獅子舞は、獅子舞の宗家といわれる角兵衛流（俗称「ささら獅子」）である。太夫獅子、中獅子、女獅子の三頭一組からなり、獅子頭は、利根川流域独特の竜形式である。

太夫獅子の両方の角に、「雨下無双角兵衛」と刻まれている。「雨」とは、「天」という意味で、「雨下」の読み方は、「あめのした、あめがした」である。かつては、「天下（てんかいち）無双角兵衛」と呼ばれていたのが、「天下無双角兵衛」、さらに「雨下無双角兵衛」となったと推定できる。

当地の下間久の獅子舞は、周辺各地に伝授されている。例えば、千葉県野田市清水町の古くから「ささら獅子舞」と称してきた「バツバカ獅子舞」は、元禄六年（一六九三）に、春日部市銚子口の獅子舞は元禄十年（一六九七）に、同市赤沼の獅子舞は享保二年（一七一七）に、庄和町（現、春日部市）中野の獅子舞は享保五年（一七二〇）に、ここから伝わったのである。もとをただせばすべて下間久里の獅子舞から発生したものである。

下間久の獅子舞の起源については、地元では文禄三年（一五九四）とし、平成十六年（二〇〇四）四月十八日に、バツバカ獅子舞、銚子口の獅子舞、赤沼の獅子舞、中野の獅子舞が一同に会して「下間久里獅子舞四百十年記念大祭」を盛大に実施した。



左の図は、越谷市大里八五五の藤田家にある「天下無双角兵衛守護神」と刻まれた寛政二年（一七九〇）の石塔である。願主の八蔵は、藤田家の先祖である。大里の村人もかつてはこの獅子舞に加わっていたことがわかる。江戸時代前期の獅子舞の世話人には、大里の村人の名もよくみられたことが「香取大明神御帳」（保管は新井隆一郎家）の資料によってわかる。

※「香取大明神御帳」（表紙には「文禄甲午」「文禄三年」と書かれている）のことは、昭和四十三年七月十日出版の三原善太郎氏（故人）著「下間久里（雨下無双角兵衛）獅子舞考」（第三集資料編）の中で触れられている。

## 下間久里の獅子舞（昭和37年3月10日埼玉県無形民俗文化財指定）

### （由来）

下間久里の獅子舞は、「雨下無双角兵衛」（あめがしたむそうかくべい）と称し、時期については7月15日に実施をしており、その目的は悪魔払いや厄除け祈願に舞われる。

獅子の一行は、御幣を捧持する太夫を先頭に村周りを行なうが、各家では太夫は御幣で家族の頭上を祓い、獅子舞を舞って祓い清める。そして、村境では太夫が「辻切り」といって太刀で天・地・中を切る所作を行い、悪魔や厄神などをムラ内から退散させる。

獅子の名称は、太夫獅子・中獅子・女獅子と称し、獅子頭の形式はいずれも龍頭形式である。

例大祭の準備は、御幣造りから始まり、前日14日早朝には香取神社で神々をお迎えし、「砂盛り」を行い境内を清める。

例大祭当日は、お神酒でお清めをし、拝殿で「シメ」の行事を行う。その後、御幣を持った太夫を先頭に獅子が「街道下り」で境内に入り、「宮参り」「津島」「早岡崎」を舞う。太夫の「くじ」が終わると、太夫を先頭に境内を出発し、笛・花笠・女獅子・中獅子・太夫獅子の隊列で村周りを行う。村周りでは、各家の座敷に入り「地固め」と他に1曲舞い、旧村境（上間久里地区・船渡地区・大里地区との境）では御幣とお札をつけた長い竹を道路の端に刺し、ヤドと呼ばれる家で休憩しながら、丸1日かけて下間久里地区全体を回る。

最後に、大里地区との村境において太夫による「辻切り」が行われ、村中の悪魔を追い詰めてきて、ここで追い出すのだという。

下間久里の獅子舞の起源については、今のところ明らかでないが、当地方におけるいくつかの獅子舞の源流をなしていることは、当地の獅子舞から伝授された獅子舞には、千葉県野田市清水町に伝わる「ばっばか獅子舞・1693年伝授」（古くからササラ獅子舞と称した）、春日部市銚子口の「銚子口の獅子舞・1697年伝授」、同市赤沼の「赤沼の獅子舞・1717年伝授」、北葛飾郡庄和町中野の「中野の獅子舞・1720年伝授」、と伝えられている。



## 2. 越谷出身の画家齋藤豊作

高崎 力

越谷出身の齋藤豊作は、明治十三年（一八八〇）六月二十二日、大相模村西方の味噌醸造業齋藤孫兵衛の次男として生まれ、東京美術学校（洋画科）を卒業して、明治三十九年（一九〇六）にフランスに留学、明治四十五年（一九一〇）に帰国、大正三年（一九一四）に「二科会」創立に尽力し、同年、日本においてフランス人女性と結婚、大正九年（一九二〇）に再び渡仏した。

フランスでは、農園・庭園付堀囲周の中世の城「ヴェヌヴェル城」を購入し、フランスにやってきた日本人留学生の面倒をみたり、西洋名画の購入斡旋を依頼されて日本に、例えば現在の大原美術館に送ったりしていた。昭和二十六年（一九五二）に故国日本に戻らないまま、フランスで没している。墓は、ヴェヌヴェル城近くの村の墓地に、妻カミーユと共に埋葬されている。

①明治末期にフランスの風景を点描画法で描いた初期の絵  
齋藤豊作の絵は、越谷には一点保存されていて、越谷市の指定文化財に指定されている。

大正四年（一九一五）に母校、大相模小学校に寄贈されたものである。

②大正年間に描かれた点描画法の絵「朝」

「朝」は、大正八年（一九一九）の作品で、八十八年前に衆目に触れて以来、左右二枚の写生画に分断され、別々の所有になっていたが、昨年、各々の絵の所在が確認され、本年一月に埼玉県立近代美術館において左右並べて展示されて話題になった。

③昭和初期に描かれた、埼玉県が五年ぶりに購入した「にわか雨」

「にわか雨」は、自分が所有し住んでいるヴェヌヴェル城から見下ろして描いた昭和五年（一九三〇）の作品である。遺族の方が保存していたものを、豊作の後半生の画業を知る数少ない貴重な作品であるので、埼玉県が激しい財政の中で購入した。

### 3. 増林での草競馬

——その歴史的背景——

山本 泰秀

古来、馬は武士の軍馬として使用され、近世に至っては庶民の乗馬・運輸・農耕馬として活躍してきた。

明治五年（一八七二）七月十二日、中仙道や陸羽街道の伝馬が廃止され、運送業に転化した。明治六年には、県は山口県から牛馬耕に長けた人を招き、耕作講習会を行った。

明治九年（一八七六）の「武蔵国郡村誌」によると、各村の馬の数は、増林村五頭、増森村二頭、小林村二頭、中島村一頭で、現在の増林地域には合計十頭の馬がいた。

また、明治二十六年（一八九三）二月七日、千住馬車鉄道が旧日光街道を、千住茶釜橋から草加町、蒲生村河岸そして越ヶ谷町（大沢）まで、さらに同年六月一日には、その先の武里村（大枝）、粕壁町の最勝院まで走ることになった。この路線はその後廃止されることとなる。

明治三十二年（一八九九）には、北千住と久喜間の東武鉄道が開通し、大沢に越ヶ谷駅（現在の北越谷駅）ができた。

大正時代には、東武鉄道の越ヶ谷駅（大沢）から吉川迄と金杉迄の乗合馬車が運行された。大正九年（一九二二）四月十七日には、越ヶ谷町に新たに越ヶ谷駅が開設（これ以前の大沢にある越ヶ谷駅は武州大沢駅と改称）し、同年十一月七日には越ヶ谷駅を中心とした乗合バスの運行が開始され、乗合馬車と一時競合することになる。

大正十二年（一九二三）九月一日、関東大震災で鉄道車両の損傷や全焼、停車場崩壊、線路の陥没等が起こり、災害復旧にスピード化が要求された。一方、馬車輸送が敬遠され、貨物自動車に移行、馬車輸送の衰退が始まった。

昭和三年（一九二八）三月十一日の東京日々新聞は、次のように報じている。

「関東競馬会」南埼玉牛馬商組合では、総会を十日正午から、越ヶ谷町河内屋（旅館、現在も本町バス停そばにあり）で開催、役員選挙も行った。・・・牛の需要は年々多くなるも、馬は荷馬車や乗合馬車が貨物旅客の各自動車に殺到されて需要が減るのみだから、業務の拡張や改善について協議し、組合発展の手法として来る廿四五日両日、菖蒲俱樂部東戸の耕地で関東競馬大会の計画を討議した・・・。

このような歴史の流れの中で、当増林での草競馬は、昭和七年（一九三二）四月三日の旧節句に古利根川右岸、勝林寺裏手の河川敷や原野・茅畑とで行われた。主催は、南埼玉

牛馬商組合（馬喰仲間）である。その当時、当地増林の馬喰は須賀伝之丞、中村宇一郎、石井卯三郎で、近隣には、千足に立沢一馬、小林に浜野演之助がいた。これらの人々が、競馬開催に力をかけたのである。

そもそも本県で最初に許可競馬が開催されたのは、大正十四年（一九二五）十二月七日、秩父郡畜産組合が主催した原谷村大野原の常設競馬場であった。ここに設置された馬場コースは、一周短離五五〇間であるという。これを当地増林でも参考として開催したと思われる。

長距離走は、数周回りという方式である。コーナーは丸太で、直線は笹竹に縄を張っての一周である。周回にはのぼりを立て、会場の雰囲気盛り上がりさせた。見物人は、近隣はもとより遠方からの観客もいて、土手一杯の黒山の人だかりであった。出走馬は、茨城県岩井、埼玉県久喜や杉戸方面と地元近隣で、農耕馬とアラブ系馬とに分けて別枠で出走した。種目は数周回りの長距離、一周回りの短距離、早歩きなどがあった。農耕馬は、裸馬に毛布を掛けただけである。アラブ系の馬に乗る人は、本格的に鞍を付け、身支度を整えた人もいた。一度に六〜七頭の出走であった。総数としては、六十〜七十頭ほどが参加した。当時の騎手として今井正作、浜野金一、須賀邦蔵などがおり、余興としては、例えば植竹安太郎（増林小学校校長）、赤山町の野口氏などが草競馬に参加した。賞品には、三段重ねタンス、米俵、ざる、金一封、旗竿（手ぬぐい位の大きさで、馬の絵の染め抜きがあった）が出された。娯楽の少なかつた当時の人々にとって大きな楽しみであったと思われる。

この頃の増林村での馬の所有者は次のごく一部の人に限られていたという。農耕馬所有者は、須賀鑑造、今井越蔵、浜野演之助。運送馬所有者は、内田西造、川尻栄蔵である。

なお、「増林での草競馬」の話は、今井正作氏、浜野隆明氏の協力を得て書き記すことができた。ここにお礼を申し上げたい。

平成十五年二月三日

#### 主な参考文献

埼玉年略、草加市史研究、東京日々新聞、東武鉄道が育んだ一世紀軌跡、武蔵国郡村誌

# NPO法人・越谷市郷土研究会とは

(平成一九年一月現在)

◎当会は、昭和四〇年(一九六五)三月に発足し、平成一六年にNPO法人になりました。現在は会員数が三百名を越える大所帯です。

◎毎年、越谷市民まつり・越谷市民文化祭・こしがや文化芸術祭に展示部門で参加しております。ほぼ毎月行われる史跡めぐりは三六四回を数えるまでになりました。

◎三月一〇日から三月二八日まで、越谷市立図書館にて「戦後の越谷」展があります。◎当会の最近の主なイベントをあげますと次のとおりです。

- 平成一八年 一月 三日 (火) 恒例の七福神(亀戸)と亀戸天神初詣で
- 平成一八年 一月 二九日 (日) 研究発表会「越谷名物・太郎兵衛もち」
- 平成一八年 二月 一日 (土) 日本橋周辺散策と三井記念美術館
- 平成一八年 二月 四日、二六日 越谷市立図書館での「明治・大正の越谷」展
- 平成一八年 三月 五日 (日) 蛸梅と梅の宝登山・長瀬火祭り
- 平成一八年 三月 八日 (土) 春のお彼岸・越谷六阿弥陀めぐり
- 平成一八年 三月 二二日、二九日 越谷市立図書館での「戦前の越谷」展
- 平成一八年 三月 二五日 (土) 講演会「御殿・鷹狩と徳川家康」(教育委員会との共催)
- 平成一八年 四月 一八日 (火) 埼玉鴨場見学
- 平成一八年 四月 二六日 (水) バス史跡巡り・千葉の御殿跡と加曾利貝塚など
- 平成一八年 五月 九日 (火) バス史跡巡り・金山城、高山彦九郎と呑龍様
- 平成一八年 五月 二四日 (水) 大間野・旧中村家のイベント「江戸あねさま人形」
- 平成一八年 六月 一四日 (水) 本土寺と小金宿界限
- 平成一八年 七月 二二日 (土) 中川船番所資料館、荒川ロックゲート
- 平成一八年 七月 二九日 (土) 大間野・旧中村家のイベント「トールベインディング教室」
- 平成一八年 八月 二六日 (土) 見田方遺跡発掘四〇周年記念講演会(主催は本会と越谷市)
- 平成一八年 九月 三〇日 (土) 鹿沼!絢爛の彫刻屋台と川上登生美術館
- 平成一八年 一〇月 九日 (月) 大間野・旧中村家のイベント「とうかんやのわらでっぼう」
- 平成一八年 一〇月 二八日 (日) 今も残る田園風景「野島・三野宮」を訪ねる
- 平成一八年 一月 五日 (日) 「さいたま芸術劇場に行こう」
- 平成一八年 一月 四日 (祝) 大間野・旧中村家のイベント「昔の遊びで遊んでみよう」
- 平成一八年 一月 二八日 (火) 会員限定バスツアー「伊勢原と大山参り」
- 平成一八年 二月 一日 (月) 建長寺で座禅体験そして初冬の北鎌倉
- 平成一八年 一月 三日 (土) 日本橋七福神めぐり
- 平成一八年 一月 二八日 (日) 歴史講演会「画家斎藤豊作 越谷からパリへ」
- 平成一八年 二月 一〇日 (土) 「春を待つ神明・西新井」を訪ねる
- 平成一八年 二月 一七日 (土) 大間野・旧中村家のイベント「親子で作ろう、お雑燗」

◎郷土研究会ニュース「りせ」の発行

◎会報「古志賀谷」の発行(B5版、百十〜百五十頁程度)及び会員無料配布

※なお、以上の他に、越谷市社会福祉協議会への寄付・文化財パトロールの活動なども行っております。また、学校や自治会、各団体などへの出前授業も承っております。

## 郷土研究会にお入りになるには

◎会費は、年間二千円(会報・諸案内状・諸会議費等)です。市外の方でも歓迎致します。

〒343-0041 越谷市 二間台西 一七一七-一六 宮川 進方  
NPO法人・越谷市郷土研究会 九九六  
☎048-975-9139